

とんぐい村の こみ・すく通信

令和3年8月10日発行 第9号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その6>

働くとは何か 農業の草取りから

7月7日、更別中央中学校2年生が宍戸農園に行って実際にカボチャ畑の草取り体験をしました。

2年生になると職業体験をすることになりますが、農業が基盤のこの地域で、生徒全員が農業の仕事を体験することがありませんでした。また、更別の農業は機械化が進んでおり、手作業はなかなかありません。そこで今年は初めてカボチャ農家に草取りに行き、同じ場所で秋には手もぎをする体験をさせてもらうことになりました。保護者の宍戸雄一さんが引き受けてくださいました。



「根から草が取れたら気持ちがいい！」と働くことに喜びを感じる生徒も。

60アールのカボチャ畑で草取り

草取りを一生懸命している子が多く、膝をついて作業をする様子も見られました。

工夫をしながら読み聞かせ

7月15日におひさまの会の皆様が更小に来校し、子どもたちに読み聞かせをしてくださいました。

感染対策のため、実際の本とモニターに写しての2つの場面を設けて絵本を読んでもらいました。30人以上の児童が楽しんでいました。



本物に学ぶ 地域の虫博士から



真剣なまなざしの子どもたち

更別小学校3年生が7月19日、北海道アウトドアガイドに

公認されている斎藤彦馬さんに来校いただき、理科「虫」の総まとめの授業をしていただきました。

斎藤さんは幼いころから虫に興味をもち多くの知識を積み重ね、たくさんの種類の虫を飼ってきました。当日はその中から、大カマキリ、大ムカデ、タランチュラの仲間など25種類の虫を学校に持ち込み、いろいろなことを教えてくださいました。

「ゴキブリは3億年前からいる虫で世界では6000種類ほど。本州で嫌がられているゴキブリはその中の数種類だけ。本当はとてもおとなしい。」など一つ一つの説明に、子どもたちは「えーっ!」「うわあ!」などの感嘆の声をあげていました。次の時間には外に出て虫をとり、その種類を確認しました。

本物に学ぶ 地域の酪農家から

7月20日、更別小学校3年生が地域の酪農家の宿田恵子さんに来校いただき、仕事のことを中心に、「酪農」の授業をしていただきました。

宿田さんは酪農の絵本の絵・写真・映像をもとに、子どもたちに分かりやすく教えてくださいました。

また、前もって受けた子どもたちからの質問にも丁寧に答えてもらいました。

「規模や経営者の考え方によって、いろいろな酪農の形があります。牛が健康であれば、酪農家も幸せ。牛乳を飲むときに、牛や酪農家のことを思ってくれるとうれしいです。」と締めくくりました。



絵本の一場面

51年前から酪農を始めました。カンファームと言います。